

グンゼラブアース倶楽部

2020年度 活動報告



明日をもっと、こちよく

GUNZE



会員の皆さまのご支援のおかげで、ラブアース倶楽部は、設立15周年を迎えることができました。グンゼの社是に「社会に貢献する」「信頼の輪を広げる」ことが謳われているのは、社員の皆さまが良くご存じのことと思います。

その精神にのっとり、より良い社会を作ろうと努力しておられる方々を、ささやかですが応援してきました。

「素晴らしい製品をお届けし、利益を作り出し、そして社会にお返りする」このサイクルを回していける会社になるよう、ラブアース倶楽部も、小さな灯をともしつづけます。

2021年 6月

代表幹事

吉鹿 央子

CONTENTS

活動報告

2020年 活動内容 / 決算・監査報告 / 支援先団体について

P2

支援先紹介

認定特定非営利活動法人 ロシナンテス

認定特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会

認定特定非営利活動法人 国境なき子どもたち

認定特定非営利活動法人 AMDA

公益社団法人 Civic Force

認定特定非営利活動法人 J.POSH

認定特定非営利活動法人 ブリッジフォースマイル

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

一般財団法人 みらいこども財団

公益財団法人 Save Earth Foundation

P4



「グンゼラブアース倶楽部」はグンゼの創業の精神に基づき、110周年を記念し新しい制度として2006年4月に設立されました。今後も会員の皆さまからの寄付(100円/1口～ 給与・賞与からの天引き)と会社のマッチングギフトを原資とし、「持続可能な社会の形成」のために活動しているNPO団体などへの支援を続けていきます。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会員募集	←—————→											
A会員	←—————→											
B会員	←—————→											
実施項目	会計監査		会報発行	運営委員会 支援先選定			振り込み 寄付金支援先へ	物品支援先へ 発送手配				会計確認
								—————→				

■収支計算書 (2020年4年1日から2021年3月31日)

(単位:円)

収入の部	
項目	金額
前期繰越金	691,631
当期収入	
活動資金(A会員)	795,700
活動資金(B会員・賛助会員)	6,000
預金利息	6
当期収入計	801,706
収入計	1,493,337

支出の部	
項目	金額
支援先への寄付	971,680
寄付金振込手数料	3,178
残高証明証手数料	1,100
支出計	975,958
※次期繰越金	517,379

■貸借対照表 (2021年3月31日)

(単位:円)


資産の部	
科目	金額
預け金	517,379
資産計	517,379


負債・剰余金の部	
科目	金額
次期繰越金	517,379
負債・剰余金計	517,379

2020年度 グンゼラブアース倶楽部 会計監査報告

グンゼラブアース倶楽部会則25条に基づき2020年度グンゼラブアース倶楽部の決算にあたり、会計監査を実施し、関係書類を監査した結果、決算書のとおり、その処理が適正かつ正確であったことをここに報告いたします。

監査委員

氏名 中山佳則 

氏名 高山新 

■支援先団体について(計10団体)

2020年度は10団体に対して合計1,943,360円の支援を実施いたしました。

支援先	支援回数	現金支援	物品支援	
				備考
ロシナンテス	16	○	○	肌着
日本クリニクラウン協会	14	○		
国境なき子どもたち	14	○		
AMDA	11		○	肌着
Civic Force	9	○		
J.POSH	8	○	○	肌着
ブリッジフォースマイル	5		○	肌着
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	4	○		
みらいこども財団	3		○	肌着
Save Earth Foundation	1		○	苗木

本業を活かした持続可能な支援(CSV)という方向性に基づき、2020年度も単なる寄付ではなく、グンゼの事業やサービスを有効に活用した支援先6団体を含む10団体への支援を実施しました。会員の皆さま、誠にありがとうございます。

今後も会員の皆さまの意見をいただきながらよりよい支援活動ができるよう運営してまいります。

これからも皆さまからの変わらぬご支援をお願いいたします。

グンゼラブアース倶楽部 事務局



■ 2020年度活動報告

日本と同様にザンビアでも、公共の場所や交通機関の利用時のほか、学校内で生徒や教職員にマスクを着用するように指導が行われています。そんな中、ロシナンテスの活動地にある学校で、マスクのない生徒は授業に参加できていないということがわかりました。進級試験を間近に控えた子どもたちがきちんと学校に通えるよう、手洗い用バケツや手指消毒用アルコールとともにマスクの寄贈を行いました。

■ 今後の活動予定について

活動地であるスーダン・ザンビアともに、事業を再開することができました。スーダンでは、川や地下水がない地域の診療所が抱える水の問題を解決するためのため池改修、ザンビアでは、出産前後の妊産婦さんが寝泊まりし、安全に出産することができるようにするため、妊産婦待機施設の建設と小型エコの導入などを進めています。

■ ギンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

2020年度は、新型コロナの影響で、新型コロナ対策支援以外の事業を実施することが難しい状況でした。そのため、予定していたご支援物資の配布も延期となりました。ザンビアで進めている妊産婦待機施設が完成し、稼働し始める今年10月以降に、改

めて活用させていただく予定です。いただいたご支援を最大限活かせるよう引き続き尽力いたします。

■ ギンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

こうした未曾有の状況にもかかわらず、変わらぬあたたかいご支援を誠にありがとうございます。いただいた温かい想いを苦しい状況にある現地の人々に届けてまいります。引き続き、よろしくお願いいたします。

認定特定非営利活動法人
ロシナンテス

<https://www.rocinantes.org>

〒802-0082
福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35
北九州市立商工貿易会館 7F
TEL 093-521-6470

 **ROCINANTES**
SMILE ALL OVER THE WORLD!



■2020年度活動報告

入院中の子どもたちは、新型コロナウイルス感染症の影響で、面会制限など遊びや交流の機会が制限されています。感染のリスクなく「こども時間」を届けたいと「クリニックラウンWeb事業」を立ち上げ、

- ①YouTubeでの動画配信
- ②インスタやYouTubeライブ配信
- ③クリニックラウンのいる部屋と子どもたちのいる病室をWebでつなぐWeb訪問(バーチャル訪問)

などを実施。Webを活用しながら、がんばっている入院中の子どもたちや家族に「こども時間」を届けています。

■今後の活動予定について

クリニックラウンWeb事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実際の病院訪問が中止となったため立ち上げました。「移植前の子どもや緊急に会わせたいときに役立つ」と病院からの要望もあり、今後も継続していきます。また、通信環境が整っていない小児病棟に、タブレットなどの通信機器の貸し出しを行い、クリニックラウンweb訪問や面会などに活用していただいております。これからも病院スタッフと協力し、子どもたちや家族が笑顔になれる療養環境を支えていきます。

■ゲンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

みなさまからいただいた寄付金は、「クリニックラウンWeb事業」の一部に活用させていただきました。新規事業のため、カメラやパ

ソコン・通信機器など機材の購入費、会場費や人件費などに支援金を充当させていただき、クリニックラウンWeb訪問では、全国13病院と5施設で実施し、入院中、自宅療養中の子どもたち849人と関わることができました。YouTubeは45回配信することができ、たくさんのお子さまや家族に笑顔を届けることができました。

■ゲンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

コロナ禍、厳しい状況でも継続してご支援して下さったことが、本当にうれしかったです。みなさんの応援を力に、入院中の子どもたちや家族にたくさん「こども時間」を届けていきます。ありがとうございました。

認定特定非営利活動法人
日本クリニックラウン協会

<http://www.clinicclowns.jp>

〒530-0053
大阪市北区末広町3-11 天しもビル3B
TEL 06-4792-8716





船着き場で乗客に水を売る仕事をする少年



ドロップインセンターでの食事



人形劇に夢中の子どもたち

■ 2020年度活動報告

コロナ禍におけるバングラデシュの首都ダッカでは、断続的なロックダウンにより、厳しい外出制限が実施されました。KnKが運営するドロップインセンターも一時活動停止を余儀なくされ、路上を生活の基盤とするストリートチルドレンにとって危機的な状況となりました。センター再開後は、消毒やマスク、シャワーなどの衛生・感染予防教育を実施しました。また、食事の提供も2食から3食に増やし、密を避けるためお弁当の提供も始めました。

■ 今後の活動予定について

コロナが落ち着いたら、普段は路上という厳しい環境で必死に稼いでいる子どもたちを遠足に連れて行ったり、スポーツ大会などを開催し、子どもらしい時間を過ごす機会を増やしていきたいと考えています。また、住民への理解促進にも力を入れ、地域全体で子どもたちを見守る環境づくりを進めていきます。

■ グンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

グンゼラブアース倶楽部の皆さまからいただいたご寄付は、フィリピンやバングラデシュなど貧困に苦しむ子どもたちの支援に活用しています。

- バングラデシュのストリートチルドレン30人に25日間食事を提供(約10万円)
- フィリピンの「若者の家」で暮らす子ども10人に2週間食事を

提供(約5万円)

- カンボジア「若者の家」で暮らす子ども20人が1ヶ月間学校に通学(約5万円)

■ グンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

支援とは、学費を払ったり、食事を提供したりするだけではなく、子どもたちの成長を見守り続けることで初めて成就するものです。子どもの成長は一日にして成らず。グンゼラブアース倶楽部の皆さまからの長年に渡るご支援は、困難な状況にいる子どもたちの成長と教育を力強く支えてくださっています。子どもたちに代わり、心より感謝申し上げます。

認定特定非営利活動法人
国境なき子どもたち(KnK)

<https://knk.or.jp>

〒161-0033
東京都新宿区下落合4-3-22
TEL 03-6279-1126





■2020年度活動報告

世界的な大流行となっている新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援として、医療機関や福祉施設、そして海外の事業地に対し、マスク、アルコール消毒液、个人防护服などの物資支援活動を行いました。また、災害緊急支援活動においては、熊本県球磨地方の豪雨災害やアムダ海外支部や現地関係先との合同支援として、ホンジュラス・ハリケーン緊急支援活動を実施しました。その他、国内外にむけてオンライン上での報告会、交流会を開催しました。

■今後の活動予定について

緊急支援事業では、新型コロナウイルス感染拡大防止に対する支援活動と災害救援活動、東日本大震災復興支援活動を継続し、災害対応準備として協力連携先の関係強化と災害に備えた物資の備蓄を確保する計画です。健康増進、教育支援、生活支援関連事業を計画しています。また、国内外でのオンラインセミナー・会議を開催予定です。

■グンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

7月の熊本豪雨で被災した人吉市の小規模多機能型居宅介護事業所「菜の花」へ夏の汗ばむ季節に肌着を提供しました。寒い冬に備え、令和元年東日本台風(台風19号)で被災した社会福祉法人賛育会豊野事業所(長野県)の高齢者、そして東日本大震

災復興支援の関係団体である仙台夜回りグループを通して路上生活者に肌着をお渡ししました。子ども食堂支援では、成長の著しい子どもの肌着が喜ばれました。インド・母子保健事業で妊産婦にショーツを渡すとともにその役割についても伝えています。

■グンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

肌着を受け取った方から「グンゼの肌着は生地がしっかりしているので嬉しい」などのコメントをいただいております。グンゼラブアース倶楽部様の温かいお気持ちとともに身も心もあたたまるご支援となりましたこと、心より感謝と御礼申し上げます。

認定特定非営利活動法人
AMDA(アムダ)

<https://amda.or.jp>

〒700-0013
岡山県岡山市北区伊福町3-31-1
TEL 086-252-7700

AMDA



■ 2020年度活動報告

災害時の緊急支援体制強化の一環として、2019年12月に広島や佐賀のNPOとともに「空飛ぶ捜索医療団ARROWS」を発足し、2020年2月からコロナ禍で逼迫する医療・福祉施設へ災害用に備蓄していたマスクや防護具、医療資機材などを届けました。また、2020年7月の豪雨災害では、発災直後から九州の被災地に救助犬を含むレスキュー隊員を派遣し、人命救助や医療支援、物資配布、感染症対策を含む複数の避難所運営サポートに尽力しました。

■ 今後の活動予定について

コロナの影響で、かつて災害により被災した地域へのダメージが深刻です。復旧・復興途上にある九州や東北の各地で、孤立しがちな親子や高齢者、障がい児・者などへの支援を続けるパートナー団体と連携し、学習サポートや居場所づくり、働く場の創出などの支援を続けています。2021年もこれらの活動を継続します。また、企業と連携した物資支援や次の災害に向けた準備の活動にも力を入れています。

■ ゲンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

ご支援は2020年7月豪雨や新型コロナウイルス感染症の緊急支援活動、また被災地のNPOと連携する「NPOパートナー協働

事業」の事業費や運営費として活用させていただきました。緊急災害対応アライアンス「SEMA」を通じていち早く届けていただいたゲンゼ様の質の高い下着や靴下などは、豪雨の中、着の身着のまま逃れてきた被災者の皆さんに活用いただき、たくさんの感謝の言葉を頂戴しました。

■ ゲンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

2011年3月11日の東日本大震災以降、長年のご支援に感謝申し上げます。災害が頻発する昨今、これからも共に備え、一緒に被災地を支えてください！

公益社団法人
Civic Force(シビックフォース)

<https://www.civic-force.org>

〒151-0063
東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階
TEL 03-5790-9366



守ろう!学びたい子供たち 育てよう!みんなで未来を
J.POSH奨学金 まなび
 For the future generation!



「J.POSH奨学金まなび」

乳がんで死亡、或いは闘病中の保護者をもつ高校生が経済的理由で高校生活の継続を諦めることがないようにと給付



まなび奨学生からの手紙

「J.POSH奨学金 まなび」に選んでいただき、たいへん嬉しく思っています。ありがとうございます。

現在私は看護師の資格をとるため看護学校に通っています。実習中は、レポートや記録物も多く忙しい日々を過ごしています。しかし、患者さんの笑顔や言葉に支えられいつも元気をもらっています。看護師になり、1人でも多くの人を助け、元気を与えられる人になりたいと思います。

職場では、看護学生として働かせていただいています。乳ガンと向き合う患者さん達は痛みや治療に伴う苦痛と戦っていることを知りました。その中でも笑顔を忘れず、毎日を精一杯生きている患者さん達に、私はいつも励まされています。今の自分にできることは限りがありますが、自分にできることを一生懸命行っていこうと思います。また、乳ガン患者さんの中に、私の母も含まれています。治療を見て初めて、その苦しさを知りました。そんな母に少しでも負担をかけないよう家事を手伝ったり、学校での費用は自分で払うようにしています。今回支給を受けることができ本当に感謝しています。学校での費用に使わせていただきます。

学校と仕事の両立はなかなかきついものですが、看護師として1日でも早く働けるよう頑張りたいと思います。

■2020年度活動報告

2020年4月の緊急事態宣言発令時、高校を卒業したばかりの「J.POSH奨学金まなび」受給生が、進学先でも就職先でも大変な想いをしているであろうと、コロナ禍特別支援金を支給させていただきました(一律5万円)。「進学先でリモート授業となったのでパソコン購入に使わせていただきました」「卒業してまでも気にかけていただき感謝しかありません」などのお礼状が届きました。2021年1月、再度の緊急事態宣言。卒業を控えたまなび受給生の不安を和らげるためにも、新卒業生に対し、再度コロナ禍特別支援金を支給させていただきました。

■今後の活動予定について

2020年はコロナ禍にあって、がん検診の受診率が大幅に下がったと言われています。この現象により、癌が進行しての発見・診断になることが懸念されています。乳がんについても然りです。今年は、いつも以上に検診受診を呼びかけると共に、自己検診の習慣付けを啓発していく必要があると考えています。

■グンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

毎年グンゼ様より頂戴するメディキュア(ハーフトップ)は、主に患者会様を通じて、会員の患者様へお配りいただいております。2020年度につきましては、患者会様も通常のように、皆様が集まることができない状況でしたので、当方でお預かりしたまま

になっております。今年の秋以降には、少しずつ活動も再開されると思われまますので、そのタイミングで皆さまにお配りいただけると考えております。

■グンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

さまざまな活動に対し、グローバルに支援をされていて素晴らしいです。そこに、私達の活動へのご支援もいただけますこと、感謝申し上げます。

認定特定非営利活動法人

J.POSH

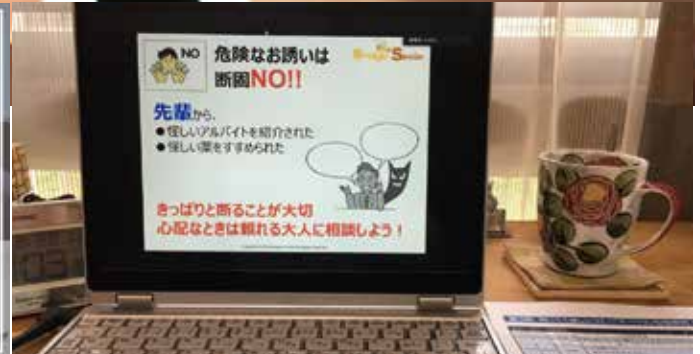
<http://www.j-posh.com>

〒538-0043

大阪市鶴見区今津南2-6-3

TEL 06-6962-5071





■2020年度活動報告

コロナにより解雇や収入減等の被害を受けた若者に、住宅支援、食糧支援、相談対応などを実施しました。当初、中止が相次いだ活動は、オンラインに切り替え、再開。団体の基幹事業である「巣立ちプロジェクト」も児童養護施設等からリモート参加を可能にしました。九州では活動拡大のため、熊本に「かたるベースくまもと」を誕生させ、居場所・相談業務を開始しました。

■今後の活動予定について

社会的養護の変化の中、これからの私たちの役割や存在意義を見つめ直し、4/16に団体ロゴ・ホームページを完全リニューアルしました。プログラムの参加ポイントに応じて生活必需品と交換できるシステム「トドクン」を子どもたちが通年利用できる仕組みとして計画。生活支援のためのシェアハウス事業は、現在の拠点とは別に新拠点のオープンも予定しています。

■ガンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

ご寄付くださったTシャツ、キャミソールは子どもたちにプレゼントさせていただきました。下着は季節を問わず必要不可欠なものです。今年は新型コロナの影響で解雇や収入減を余儀なくされた若者にとって、その購入費用を他の生活費や貯蓄に充てる重要性は、例年に増して高まっております。厳しい状況は続いておりますが、親を頼れない多くの若者が御社の製品のおかげで、快

適な毎日を過ごせています。ありがとうございます。

■ガンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

施設を退所した後本当の試練を迎える若者にとって、生活必需品の有無が彼らの生活を大きく左右します。いつも快適なインナーウェアのご提供、本当にありがとうございます！
これからも、応援よろしくお願ひします！

認定特定非営利活動法人
ブリッジフォースマイル

<https://www.b4s.jp>

〒100-8228
東京都千代田区大手町2-6-2
(株式会社パソナグループ本部内)
TEL 03-6842-6766





© Jim Huylebroek Save the Children

インドネシア事業



新型コロナ緊急支援



■2020年度活動報告

世界中の子どもたちが新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受ける中、子どもたちに支援を届けました。海外では、紛争や暴力の影響を受ける子どもたちへの緊急・人道支援や社会経済的な格差などの要因で、より脆弱性が高い子どもたちへの支援活動も継続しました。日本では、体罰等によらない子育ての啓発活動、ひとり親家庭への食料品配布や放課後児童クラブへの支援、そして、7月豪雨への緊急・復興支援を実施しました。

■今後の活動予定について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、先進国、途上国に関わらず、外出禁止や自粛による影響は、貧困の拡大、家庭内暴力の増加、そして教育の機会が奪われるというかたちで、子どもたちにも及んでいます。教育や生計支援、感染症拡大抑止のための支援のほか、より脆弱性が高い子どもたちへの支援が途絶えることがないように「生きる、育つ、守られる・参加する」という子どもの権利実現のための支援を実施してまいります。

■ゲンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

ゲンゼラブアース倶楽部さまからのご寄付は、日本と世界の子どもたちのための活動に広く活用させていただいています。2020年度は前述したように、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受ける中、日本と世界の子どもたちに支援を届けまし

た。また、7月豪雨緊急子ども支援事業においては、肌着や靴下などを物品寄付いただき、被災した熊本県の子どもたちとその家族に提供させていただきました。

■ゲンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

世界中の子どもたちのために、セーブ・ザ・チルドレンをご支援いただき、誠にありがとうございます。皆さまの支援が、子どもたちの今と未来を支えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

公益社団法人
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

<https://www.savechildren.or.jp>

〒101-0047
東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F
TEL 03-6859-0070



Save the Children
セーブ・ザ・チルドレン



■2020年度活動報告

コロナ禍において施設訪問活動は一部制限されましたが、児童養護施設にヒアリングを行った結果、児童養護施設の卒園生がレストランなどで苦しんでいるということが判明したため、ボランティアで集めたレトルト食品やマスクなどを寄付として送りました。また、一般の方から寄付をいただいた約700万円を約150名の卒園生に対して緊急支援金として一人当たり3~5万円お渡しするなど訪問以外に物品提供などの支援を行いました。

■今後の活動予定について

引き続き、児童養護施設を訪問して子供たちのケアをする活動に加えて、教育の支援や就業の支援を継続して行う予定です。さらに、新しい取組として、児童養護施設で暮らす子どもたちに対してのオンラインを活用した学習支援、そして、児童養護施設を卒園し、進学する子どもに対してオンラインで里親ができるプロジェクトをスタートさせます。

■グンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

グンゼラブアース倶楽部様からご支援いただいた製品を大阪府にある児童養護施設 遙学園様に寄付しましたところ、大変喜んでいただきました。また、ヤフー様の協力で未来子ども財団に寄付をしていただいた方に抽選でグンゼ様から頂戴した製品をプレゼントさせていただき、多くの方に送らせていただきました。

■グンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

グンゼ様には毎年継続して商品を寄付していただけることで児童養護施設との関係性を深くすることができ、コロナ禍においても一歩踏み込んだ支援ができるようになりました。本当にありがとうございました。

未来子ども財団を通じ、大阪府三島郡にある「児童養護施設 遙学園」に在籍する子供たちにグンゼの肌着が贈られました。新生活に向けて配布された肌着に「カッコイイパンツをありがとう」「穿きこちがいい」「いっぱい使います」と喜んでいただくとのことです。



一般財団法人
未来子ども財団

<https://miraikyousou.com>

〒530-0004
大阪市北区堂島浜1-1-15
TEL 06-6344-3345





■2020年度活動報告

私たちは、森林の再生保全、森林資源の利活用、森林環境教育を行うことで、自然の恵み豊かな社会の実現を目指しています。今年はコロナの影響を受け、全国的にイベントや活動が中止となるなか、国土緑化推進機構のガイドラインに準拠した森林ボランティア活動の企画運営に努めました。その成果として、2020年度は、総勢195人の方にご参加いただき、合計164本の植樹を行うことができました。

■今後の活動予定について

現在、森林保全協定を締結している4地域6ヶ所(約84h)の森は、それぞれ特徴があります。スギやヒノキの人工林では、間伐、植樹、下草刈、枝打ち等の活動を行うことで、将来世代に良質な木材資源を残す活動を継続して行っていく予定です。里山林では在来種が生息できる環境づくりを目指し、自然環境調査に基づき、特定外来種の抜き取り作業を行っていく予定です。また、地域産の木材をつかって勉強機をつくるイベントや親子で自然について学ぶ森林環境教育にも力を入れて活動していきます。

■グンゼラブアース倶楽部からの支援の用途について

ご支援いただきました千葉県産クヌギ・コナラの苗木計130本は、森林所有者と協定を締結し、森林再生保全活動を行う「埴谷(はにや)の森」(千葉県山武市)に植樹させていただきました。

埴谷の森では、2019年秋の台風により多くの倒木被害が発生しました。杉の人工林から、クヌギ・コナラ等の広葉樹林に移行していくことを計画していたため、グンゼ様からの苗木寄贈のご提案には本当に感謝しています。

■グンゼラブアース倶楽部へのメッセージ

この度は、千葉県産クヌギ、コナラ苗木130本をご寄贈いただき、本当にありがとうございました。ご寄贈いただきました苗木をしっかり育てる活動を通じて、CO2吸収固定と同時に、生物多様性にも配慮した森づくりを行っていきます。

公益財団法人
Save Earth Foundation

<https://save-earth.or.jp>

〒144-0043
東京都大田区羽田1-1-3 大鳥居京急第一ビル
TEL 03-5737-2744

 美しい地球を子どもたちに残したい
公益財団法人 Save Earth Foundation



平素より、当倶楽部の活動にご理解・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2021年度も引き続きご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

グンゼラブアース倶楽部は随時新規会員を募集しています。

一人でも多くの方々に活動のご理解がいただけるようお声がけをお願いします。